



22052039

JAPANESE A2 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A2 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A2 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Tuesday 3 May 2005 (morning)
Mardi 3 mai 2005 (matin)
Martes 3 de mayo de 2005 (mañana)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Section A consists of two passages for comparative commentary.
- Section B consists of two passages for comparative commentary.
- Choose either Section A or Section B. Write one comparative commentary.
- It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- La section A comporte deux passages à commenter.
- La section B comporte deux passages à commenter.
- Choisissez soit la section A, soit la section B. Écrivez un commentaire comparatif.
- Vous n'êtes pas obligé(e) de répondre directement aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le souhaitez.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- En la Sección A hay dos fragmentos para comentar.
- En la Sección B hay dos fragmentos para comentar.
- Elija la Sección A o la Sección B. Escriba un comentario comparativo.
- No es obligatorio responder directamente a las preguntas de orientación que se incluyen, pero puede utilizarlas si lo desea.

問題Aか問題Bのどちらかを選び、答えなさい。

問題 A

次の二つの文章について、共通点・相違点、主題を分析し比較しなさい。またその際、筆者が自分の考えを読者に伝えるために用いている文の構成・語彙・言葉の象徴するもの・文体などの要素を考慮に入れなさい。この二つのテキストの終りには設問がありますが、設問に直接答える必要はありません。この設問を、単にコメントリーを書きはじめる手がかりとして用いることも可能です。

テキスト 1 (a)

人は、いったい、他者に対してどこまで思いやりを持てる存在なのか？

わたしがそのことを大きな驚きの中で教えられたのは、タイ、カンボジア国境の戦場でした。1980年 6月、ジャーナリストとして、タイ国境に逃れたカンボジア難民の取材に当たっていた私は、突然、戦闘に巻き込まれました。大砲の砲弾がうなりを立てて頭上を飛び交い、炸裂するたびに地響きがする。機関銃の発車音もだんだん迫ってくる。足下からは大地を揺るがす砲弾の地響きが全身を凍らせるようにはい上がってきました。(中略)

コーンちゃんという3歳のその女の子は、国境線上のノンチャンに設けられた難民キャンプの、重度栄養失調の子供ばかりを収容したテントの中にいました。竹を組んで急ごしらえしたベッドの上では、手足は枯れ木のようにやせ衰えているのに、重い栄養失調の特徴でおなかだけは異様に膨れ上がっている5歳以下の子供が、40人近く手当てを受けていました。わたしが病室代わりのテントを訪ねた時は、ちょうど一日一回の食事どきで、子供たちは、アルミの食器に入れてもらったおかゆをがつがつとすすっているところでした。

すると、早めに自分のおかゆを食べてしまった2歳くらいの男の子が、竹ベッドから降りてコーンちゃんのほうにやって来ました。やって来るといっても、その子も自分の足では歩けないほどやせこけていて、ベッドからベッドへ約5メートルほどを伝い歩きして近づいて来たのです。

いったい、何が始まるのだろう。ぼんやり見守っていると、コーンちゃんが手ですくったおかゆを、ひょいと男の子の口もとに近づけ、食べさせてやったのです。これには度肝をぬかれました。同行していた写真記者は、慌ててシャッターを切りました。自らも重い栄養失調であり、しかも乏しい食事を、わずか3歳の幼い子供が他人に分けてやる。難民キャンプという、ひとつの極限状況の中で、たった三つの子供が他人への思いやりを失わずにいる。

「もし自分が同じ境遇に置かれていたら、分けてやるだろうか。きっとできないだろうな。」わたしと写真記者は、そうことばを交わしつつ、人間には本来的に他者への思いやりがあることを、きらりと光るようにかいま見せられ、驚きそして感銘を受けたのでした。

しかし、戦闘の合間を縫って再訪したノンチャンーキャンプは破壊され、必死に探し回っても、二度とコーンちゃんに会えませんでした。空っぽになったテントの近くにあるのは、戦死した兵士の遺体ばかりで、そばに近づくと、無数のハエがうなりをたてて飛び立って、わたしたちの体に止まり、白い服が真っ黒になったほどでした。

(荒巻 裕「アジアにかかる虹」1993)

あらまき ゆたか
荒巻 裕 (1942-) アジア問題研究家・元ジャーナリスト。

テキスト 1(b)

大人になれなかった弟たちに……

米倉齊加年

僕の弟の名前は、ヒロユキといいます。僕が小学校四年生のときに生まれました。その頃は小学校といわずに、国民学校くわんしやうといっていました。僕の父は戦争に行っていました。太平洋戦争の真っ最中です。空襲くうしゆうといって、アメリカのB 29という飛行機が毎日のように爆弾を落としにきました。夜もおちおち寝ていられません。毎晩、防空壕ぼうくわうごうという地下室の中で寝ました。(中略)

5 そのころは食べものが十分になかったので、母は僕たちに食べさせて、自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母のお乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。ヒロユキは食べるものがありません。おもゆおもゆといっておかゆのもっと薄いのを食べさせたり、やぎのミルクを遠くまで買いに行き飲ませたりしました。でもときどき配給がありました。ミルクが一缶、それがヒロユキの大切な大切な食べ物でした……。

10 みんなには到底わからないでしょうが、そのころ、甘い物が全然なかったのです。あめもチョコレートもアイスクリームも、お菓子は何にもないころなのです。食いしん坊だった僕は、甘い甘い弟のミルクは、よだれが出るほど飲みたいものでした。母は、よく言いました。ミルクはヒロユキの御飯だから、ヒロユキはそれしか食べられないのだからと……。

でも、僕は隠れて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。それも、何回も……。

15 僕にはそれがどんなに悪いことか、よく分かっていたのです。でも、僕は飲んでしまったのです。僕は弟が可愛くて可愛くてしかたがなかったのですが、……それなのに飲んでしまいました。

あまり空襲くうしゆうがひどくなってきたので、母は疎開そかいしようと言いました。それである日、祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をおんぶして僕と三人で、親戚しんせきのいる田舎に出かけました。ところが、親戚の人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに食べ物はないと言いました。20 僕たちは食べ物をもらいに行ったのではなかったのです。引っ越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、僕に帰ろうと言って、くるりと後ろを向いて帰りました。

その時の顔を、僕は今でも忘れません。強い顔でした。でも悲しい悲しい顔でした、僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子供を必死で守ってくれる母の顔は、美しいです。僕はあのときのことを思うと、いつも胸がいっぱいになります。

(米倉齊加年「大人になれなかった弟たちへ」1986)

(注) 米倉齊加年(1934-) 俳優・演出家・絵本作家。

配給 戦争中、食糧などの販売を政府が統制し、国民に一定量ずつ割り当てたこと。
疎開 空襲などの被害を少なくするため、集中している人口を地方に分散すること。

- 戦時下の子供の様子はどのように描かれていますか。
- 二人の筆者は、どのような読者や聴衆に対して語っていますか。それは、どこから分かりますか。
- 筆者の戦争に対する思いは、どのように語られていますか。比較しなさい。

問題 B

次の二つの文章について、共通点・相違点、主題を分析し比較しなさい。またその際、筆者が自分の考えを読者に伝えるために用いている文の構成・語彙・言葉の象徴するもの・文体などの要素を考慮に入れなさい。この二つのテキストの終りには設問がありますが、設問に直接答える必要はありません。この設問を、単にコメントリーを書き始める手がかりとして用いることも可能です。

テキスト 2(a)

「春は馬車に乗って」

彼と妻とは、もう萎れた一對の茎くきのように、日々黙って並んでいた。しかし、今は、二人は完全に死の準備をしてしまった。もう何事が起ころうとも怖がるものはなくなった。そうして、彼の暗く落ち着いた家の中では、山から運ばれて来る水甕がめの水が、いつも静まった心のように清らかに満ちていた。

5 彼の妻の眠っている朝は、朝ごとに、海面から頭を擡もたげる新しい陸地の上を素足で歩いた。前夜満潮に打ち上げられた海草は冷たく彼の足にからまりついた。時には、風に吹かれたようにさまよい出てきた海辺の童児が、生々しい緑の海苔にすべりながら岩角をよじ登っていた。

海辺にはだんだん白帆が増していった。海際みざきの白い道が日増しに賑やかになってきた。ある日、彼の所へ、知人から思わぬスイートピーの花束が岬みさきをまわって届けられた。長らく寒風にさびれ続けた彼の家の中に、初めて早春が匂やかに訪れてきたのである。彼は花粉にまみれた手で花束を捧ささげるように持ちながら、妻の部屋に入って言った。

「とうとう、春がやってきた。」

「まあ、綺麗きれいだわね。」と妻は言うのと、ほほ笑みながらやせ衰えた手を花の方に差し出した。

「これは実に綺麗じゃないか。」

15 「どこから来たの。」

「この花は馬車に乗って、海の岸を真っ先に春を撒まき撒まきやって来たのさ。」

妻は彼から花束を受けると両手で胸いっぱい抱き締めた。そうして、彼女はその明るい花束の中へ蒼あおざめた顔を埋めると、恍惚として眼を閉じた。

(横光利一「春は馬車に乗って」1927年、現代仮名遣いに変更)

横光利一(1898-1947)小説家。戦前・戦中・昭和の代表的な作家で、『日輪』『上海』『旅愁』などの作品がある。

テキスト 2(b)

眠りの誘い^{いざな}

おやすみ やさしい顔した娘たち
おやすみ やわらかな黒い髪を編んで^{くるみ}
おまえらの枕もとに胡桃色にともされた燭台のまわりには^{しょくだい}
快活な何かが宿^{やど}っている（世界中はさらさらと粉の雪）

- 5 私はいつまでもうたっていてあげよう
私はくらい窓の外に そうして窓のうちに
それから 眠りのうちにおまえらの夢の奥^{おく}に
それから くりかえしくりかえして うたっていてあげよう

ともし火のように

- 10 風のように 星のように
私の声はひとふしにあちらこちらと……

するとおまえらは^{りんご} 林檎の白い花が咲き
ちいさい緑の実を結び それが快い速さで赤く熟れるのを^う
短い間に 眠りながら 見たりするであろう

（立原道造^{あかつき}『暁と夕の詩』1936年。現代仮名遣いに変更）
（注）立原道造(1914-39) 詩人・建築家。

- 二つの作品において、どのような雰囲気を作り出されていますか。
— 作者は文章にどのような工夫をして、自分の思いを伝えていますか。
— 二つの作品の中で比喩^{ひゆ}はどのように使われていますか。またその効果について述べなさい。